シラバス参照

授業科目名	肢体不自由児教育総論
単位数	1
授業形態	講義
講義コード	5746
授業担当者氏名	阿部崇(アベ タカシ)

授業の到達目標 (ディプロマポリシーとの関連)	(1) 肢体不自由児教育に関する基礎的事項について列挙することができる。(DP2) (2) 肢体不自由児教育の教育課程及び教育の実際について説明することができる。(DP8・DP9) (3) 肢体不自由児教育の今日的課題について、資料に基づき議論することができる。(DP3・DP8・DP9)			
授業概要	肢体不自由の定義・原因・発達特性や歴史的展開と今後の動向などの基本的事項から、肢体不自由児教育の教育課程の特徴や特別支援学校の教科学習と自立活動を中心とする教育の実際を概観し、肢体不自由児教育の基礎的知識を習得する。さらに、障害の重度・重複化にともなう重複障害児の発達と教育的支援教育的基盤の形成について学ぶ。また、肢体不自由児教育の専門性について、さらには肢体不自由者の社会生活について理解を深める。			
科目ナンバリング	1-KKO-2-N09-3-2			
科目ナンバリングについて	科目ナンバリングとは、授業科目に各々の番号を付すことで、学問分野や学修の段階等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みのことです。科目ナンバーは次のように構成されています。 1-AAA-1-A01-1-1 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (1)設置 大区分(大学・短大) (2)設置 小区分(学部、学科、専攻等) (3)科目分類 大区分(共通科目、専門科目等) (4)科目分類 小区分(学問分野を体系化し分類) (5)配当学年 (6)科目種別(卒業に係る必修・選択の区分) 詳細は下記をご覧ください。			
科目ナンバリング参照ページ	https://www.tokyo-kasei.ac.jp/academics/course_number/post_3.html			
授業の特徴	特徴	該当		
	A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり	-		
	B: 課題解決型(PBL)連携なし	-		
	C: 討議(ディスカッション、ディベート等)	-		
	D: グループワーク	-		
	E: プレゼンテーション	-		
	F: 実習、フィールドワーク	-		
	G: 双方向授業(ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)	○		
	H: 双方向授業(ICT活用あり: クリッカー、manaba等)	-		
	I: 反転授業	-		
	J: 外国語のみで行われる授業	-		
K: オープンな教育リソース(JMOOC・edX・Coursera等)を利用した授業	-			
実施形態	対面授業科目			
実施形態について	※本学では、授業科目を以下のとおり分類しています。 対面授業科目 : 授業回数の全部あるいは授業回数の半数以上を対面で行う授業科目 メディア授業科目 : 上記「対面授業科目」以外で、主にメディアで行う授業科目 ※上記実施形態と異なる授業回がある場合は、以下「授業計画」欄に記載しています。			
授業計画	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="background-color: #fff2cc;">第1回</td> <td>肢体不自由の定義・原因・分類・発達特性 (担当: 阿部)</td> </tr> </table>		第1回	肢体不自由の定義・原因・分類・発達特性 (担当: 阿部)
第1回	肢体不自由の定義・原因・分類・発達特性 (担当: 阿部)			

	第2回	肢体不自由児教育の歴史と発展（担当：阿部）
	第3回	肢体不自由児教育における教育課程（担当：阿部）
	第4回	肢体不自由児教育における自立活動（担当：阿部）
	第5回	重度・重複障害児の発達特性と教育的基盤の形成（担当：阿部）
	第6回	医療的ケア児の教育とその動向（担当：阿部）
	第7回	肢体不自由者の権利と社会生活（担当：阿部）
授業外学修予習（事前学修）	各授業	配付資料を読んで疑問のあることについて質問を考えること。
	[平均100分]	
授業外学修復習（事後学修）	各授業	講義ごとに要点をA4版1枚程度に文章で整理すること。
	[平均100分]	
評価方法	期末レポート50%、随時のミニレポート30%、授業態度20%で、総合的に評価する。	
教科書等	特になし。各回のテーマに合わせた資料を配付する。	
課題に対するフィードバックの方法	ミニレポートについて次回の授業にてフィードバックを行う。	
その他	特になし	
授業担当者の実務経験の有無	実務経験あり	
「授業担当者の実務経験の内容」および「実務経験を活かした授業内容」	特別支援学校に勤務した経験を活かして、事例や実務上の経験なども織り交ぜながらより実践的な講義を行う。	
ファイル		